

教 育 研 究 業 績 書

2025年 5月 1日

氏名 田 中 住 幸

研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
1. 教育学		教育社会学	
2. 健康・スポーツ科学		身体教育学	
3. 子ども学		子ども学	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項			
事 項		年月日	概 要
1 教育方法の実践例 1) アクティブラーニングの活用		2023年9月 ～2024年1月	札幌大谷大学短期大学部の演習授業「保育内容研究（健康）」において、保育施設における安全教育・安全管理に関する全体的な概要を確認すると共に、幼児の年齢的な特性から予想できる事故について小グループでのディスカッションを行い、過去の事故例と比較することで、より具体的に保育施設での安全教育・安全管理の必要性について理解を深めることが出来た。
2) 体験活動の活用		2022年9月 ～2023年1月	札幌大谷大学短期大学部の演習授業「野外研究」において、幼児期における見る、触る、聞く、嗅ぐなどの様々な感覚を用い、身近な環境への気づきを深めることの重要性を伝えるべく、近隣の自然環境を活用し、ネイチャーゲームなどの様々な感覚を用いて自然を体感する事の出来る体験活動に触れる機会を設けた。講義で得た知識が、より具体的なものとして習得できた他、実際の保育現場で活用可能な活動の習得にもつながった。
2 作成した教科書、教材 1) 人と自然をつなぐ教育Ⅱ 自然体験教育の実践		平成27年10月	自然体験教育の指導者を志す学生を主な対象とした指導書を作成した。プログラムの立案から運営に到るまでの過程や指導方法、安全管理についてを実際の実践事例の紹介を通して解説した。 (共著者) 能條歩、田中住幸、濱谷弘志
2) 自然体験教育ブックレット③とぎすまそう！安全への感覚～里山活動でのリスク管理～		平成30年11月	自然体験教育の指導者や保育者を目指す学生を主な対象とした指導書を作成した。自然体験教育の安全管理についての基本的な考え方や、危険予知・回避、病気やケガの対処方法について解説した。 (共著者) 能條歩、田中住幸
3) たのしくやろう！危険予知トレーニングワークショップ素材集		2020年5月	ハイキングや野外炊事などの自然体験教育の活動場面を想定した、危険予知シートを用いた危険予知ワークショップの進行についての解説をまとめた。 (共著者) 田中住幸、能條歩
3 教育上の能力に関する大学等の評価		2021年1月	飯田女子短期大学の演習授業「子どもとからだ」において、学生による授業評価を受けた。「この演習で得た内容は有用であった。」といった『授業全体の評価』を尋ねる質問項目で、高い評価（3.6／4）を得ることができた。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		平成21年4月 ～平成29年3月	1) 実習生の受入れ NPO法人あそベンチャースクールにおいて、北星学園大学文学部心理・応用コミュニケーション学科のフィールド実習の実習生を受入れ、指導を担当した。

事 項	年 月 日	概 要
	平成21年4月 ～平成29年3月	2) 実習生の受入れ NPO法人あそベンチャースクールにおいて、北海道教育大学岩見沢校アウトドア・ライフコースの地域指導実習の実習生を受け入れ、指導を担当した。
	平成26年1月 ～平成29年1月	3) 札幌市幼稚園新規採用教員研修講師 幼稚園教諭初任者（約100名）を対象に「保育に活かす雪あそび」の講師を担当し、雪を使った北海道ならではの自然遊びを紹介した。
	平成26年8月	4) 札幌市私立幼稚園連合会「中央区ブロック実技研修会」講師 幼稚園教諭（約30名）を対象に、保育に活用できる自然体験活動として、様々な感覚を用いて、自然を直接体感することの出来る「ネイチャーゲーム」を紹介した。
	平成27年11月	5) 第47回札幌市私立幼稚園連合会教育研究大会講師 幼稚園教諭（約70名）を対象に、「五感で遊ぶネイチャーゲーム」の講師を担当し、自然体験学習プログラム「ネイチャーゲーム」の保育への活用事例を紹介した。
	平成29年11月	6) 平成29年度「長野県放課後児童支援員認定資格研修」講師 放課後児童支援員（約60名）を対象に、「安全対策・緊急時対応」といったテーマで、放課後支援事業におけるリスクマネジメントに関する基本的な考え方について解説した。
	平成30年9月	7) 長野県私立幼稚園・認定こども園協会「南信エリア伊那・飯田ブロック研修会」講師 信州やまほいくと幼児教育－幼児期における自然体験の重要性－といったテーマで、保育教諭（40名）を対象に、保育に活用できる自然体験活動について、事例紹介を中心に解説した。
	平成30年11月 ～2019年1月	8) 南信州私立認定こども園協会「保育士等キャリアアップ研修会」講師 キャリアアップ研修「幼児教育15時間コース」として、保育士（80名）を対象に、主に3歳以上児向けの保育内容として、自然保育をテーマにした研修を行った。
	2019年7月 ～2021年3月	9) 長野県地域発元気づくり支援金活用事業「保育に関わる人のための安全対策講座」講師 飯田・下伊那地域の保育者や保護者、森のようちえん指導者、子育てボランティアら（130名）を対象に、保育中の安全管理や応急手当の基礎についての解説や手技訓練を行った。
	2021年6月	10) 駒ヶ根市保育園協会「保育のための安全対策講座」講師 長野県駒ヶ根市の保育者（50名）を対象に、保育中の安全管理についての解説や危険予知トレーニングの指導を行った。
	2021年7月～10月	11) 実習生の受入れ NPO法人あそベンチャースクールにおいて、北星学園大学文学部心理・応用コミュニケーション学科のフィールド実習の実習生を受入れ、指導を担当した。
	2021年9月	12) 飯田市私立保育園協会「屋外保育の危機管理」講師 長野県飯田市の保育者（100名）を対象に、保育中の安全管理や事故事例分析の方法についての解説や危険予知トレーニングの指導を行った。
	2021年10月	13) 札幌市西区・手稲区合同研修会「ネイチャーゲーム」講師 札幌市西区・手稲区の保育者（30名）を対象に、自然体験学習プログラム「ネイチャーゲーム」の保育への活用事例を紹介した。

事 項	年月日	概 要
	2021年12月～ 2022年2月	14) 森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク・(公社)国土緑化推進機構「森と自然の育ちと学びラボ 2021」講師 自然保育の推進に取り組む自治体の職員(20名)を対象にした研究会の「人材育成」をテーマにした部会で、助言を行った。
	2022年7月～10 月	15) 実習生の受入れ NPO法人あそベンチャースクールにおいて、北星学園大学文学部心理・応用コミュニケーション学科のフィールド実習の実習生を受入れ、指導を担当した。
	2022年7月～10 月	16) 西区環境まちづくり協議会「エコキッズ・プログラム」講師 (札幌市)西区環境まちづくり協議会(事務局/札幌市西区役所)からの委嘱を受け、同区内の幼稚園、保育所、認定こども園、小学校を対象にした自然体験活動出前事業「エコキッズ・プログラム」の講師を務めた。2022年度は、全24園(校)の指導を担当した。
	2022年7月～9 月	17) 札幌市西区役所地域振興課「親子でエコキッズ」講師 札幌市西区内の未就園親子(10組)を対象にした屋外型の子育て広場で、自然体験活動の指導を担当した。
	2022年7月～ 2023年2月	18) 札幌市西区役所地域振興課「西区コドモ自然学校」講師 札幌市西区内の小学生(各20名程度)を対象にした、自然体験活動(夏・秋・冬)の講師を担当した。
	2022年8月	19) 札幌市立手稲東小学校「サタデースクール」講師 札幌市立手稲東小学校主催の「サタデースクール:川遊び時習館(参加児童60名)」で、自然体験活動の講師を担当した。
	2022年9月	20) 札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部「公開講座」講師 「保育に活かす安全対策講座」と題して、屋外での保育活動をテーマに、専用のイラストシートを用いた危険予知トレーニングを行った。現職の保育者を中心に、10名の参加があった。
	2022年9月	21) 札幌私幼南区合同研修会「ネイチャーゲーム」講師 札幌市南区の保育者(30名)を対象に、自然体験学習プログラム「ネイチャーゲーム」の保育への活用事例を紹介した。
	2023年1月	22) 「令和4年度環境教育・環境保全活動に関するプログラム実践講座」講師 北海道環境生活部環境保全局環境政策課主催の同講座にて、道内の保育者、教員、社会教育主事、自然観察指導者(25名)を対象に、自然体験学習プログラム「ネイチャーゲーム」の実践指導及び理論解説を行った。
	2023年1月	23) 札幌大谷大学附属幼稚園「救急救命講習会」講師 札幌大谷学園学園講師として、札幌大谷大学附属幼稚園の教職員を対象に救急救命講習(MFA®チャイルドケアプラス™)を実施した。14名の参加があった。
	2023年5月	24) 国立大雪青少年交流の家「青少年教育者のためのSTEP UPセミナー」講師 令和5年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業の一環として開催された同講座において、「アイスブレイク入門」の実践指導及び理論解説を行った。教員、施設職員、教育委員会職員など20名の参加があった。

事 項	年月日	概 要
	2023年7月	25) 札幌大谷大学附属幼稚園「救急救命講習会」講師 札幌大谷学園学園講師として、札幌大谷大学附属幼稚園の教職員を対象に救急救命講習（MFA®チャイルドケアプラス™）を実施した。8名の参加があった。
	2023年8月	26) 北海道社会福祉協議会「主任保育士等研修」講師 北海道内の主任保育士、主幹保育経験等（80名）を対象にした研修会において、「講義3 安全管理と安全教育の重要性」として、保育所等におけるリスクアセスメントの方法について、解説と演習指導を行なった。
	2024年1月	27) 札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部「公開講座」講師 「保育に活かす安全対策講座」と題して、屋外での保育活動をテーマに、専用のイラストシートを用いた危険予知トレーニングを行った。現職の保育者を中心に、18名の参加があった。
	2024年6月	28) NPO法人子育て応援かざぐるま「子育て支援こころとからだ基礎コース12講座」講師 保育所や幼稚園等に勤務する保育士および教諭、地域子育て支援拠点やサロン等の子育て支援者（20名）を対象に、「自然とのふれあい実技～円山原生林」と題して、乳幼児でも気軽に楽しむことができる自然体験の方法を紹介した。
	2024年8月・10月	29) 北海道社会福祉協議会「主任保育士等研修」講師 北海道内の主任保育士、主幹保育経験等（90名）を対象にした研修会において、「安全管理と安全教育の重要性」と題して、保育所等におけるリスクアセスメントの方法について、解説と演習指導を行なった。
	2024年9月	30) さっぽろ青少年女性活動協会「こどものまなび塾」講師 子どもに関わるボランティアに参加する社会人や学生（20名）を対象に、「野外遊び・ネイチャーゲーム」と題して、身近な公園でも楽しむことができる自然体験活動を紹介した。
5 その他		特記事項なし
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年月日	概 要
1 資格、免許	平成6年3月	1) 中学校教諭一種免許状 保健体育平五中一第八六六号（千葉県教育委員会）
	平成6年3月	2) 高等学校教諭一種免許状 保健体育平五高一第七九四号（千葉県教育委員会）
	平成25年4月	3) 自然体験活動指導者（NEAL）主任講師資格 自然体験活動指導者養成資格（全国体験活動指導者認定委員会公認）
	2019年3月	4) 国家戦略特別区域限定保育士 大阪府－901620
2 特許等		特記事項なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項	平成25年8月～平成29年7月	1) 北海道環境教育等推進協議会委員 北海道知事より委嘱を受け、「北海道環境教育等行動計画」について、特に幼児期の環境教育、自然体験活動の立場から意見を述べた。
	平成25年10月～平成28年3月	2) 札幌市河川環境推進会議委員 札幌市長より委嘱を受け、札幌市環境指針に基づく河川行政のあり方について、特に環境教育の立場から意見を述べた。

事 項		年月日	概 要	
		2019年9月 ～2021年3月	3) 伊那市子ども・子育て審議会委員 伊那市長より委嘱を受け、同市の第二期子ども・子育て計画作成の審議において、学識経験者の立場から意見を述べた。	
4 その他		特記事項なし		
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 人と自然をつなぐ教育Ⅱ 自然体験教育の実践	共著	平成27年10月	北海道自然体験活動サポートセンター 186頁	(担当部分概要) pp. 129～153 第6章「資料から実践へ～情報の読みこなしから活用へ～」 第7章「安全管理と応急手当～危険への予知・回避・対策～」 自然体験教育の指導者を志す学生を主な対象とした指導書において、札幌市西区での地域資源を活かした自然体験プログラムについて紹介し、プログラムの立案から運営に到るまでの過程や指導方法について解説した。また、屋外活動時に発生が考えられるケガや病気について、具体的な応急手当の方法や安全管理についての基本的な考え方をまとめた。 (共著者) 能條歩、田中住幸、濱谷弘志
2. 自然体験教育ブックレット③とぎすまそう！安全への感覚～里山活動でのリスク管理～	共著	平成30年11月	北海道自然体験活動サポートセンター 92頁	(担当部分概要) pp. 26～51、pp. 54～61、pp. 72～77 第2章「シナリオ（事故事例）で学ぶ安全管理」 第3章「安全管理のチェックポイント」 自然体験教育の指導者を志す学生を主な対象とした指導書において、自然体験教育の安全管理についての基本的な考え方や、危険予知・回避、病気やケガの対処方法について解説した。特に、事故事例をもとに安全管理について学ぶシナリオトレーニングや、危険予知シートを用いて行う危険予知トレーニングについての解説を担当した。 (共著者) 能條歩、田中住幸
3. たのしくやろう！危険予知トレーニングワークショップ素材集	共著	2020年5月	北海道自然体験活動サポートセンター 24頁	(担当部分概要) pp. 8～17 「KYTワークショップ②」「活動が楽しみになるセーフティートーク」 自然体験教育の活動場面を想定した、危険予知シートを用いた危険予知ワークショップの進行についての解説をまとめた。 共著者：田中住幸、能條歩

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 4. 自然保育と環境教育・ESD	共著	2023年3月	北海道自然体験活動サポートセンター 220頁	(担当部分概要) pp. 6～20、pp. 62～139、pp. 248～249 編集代表及び、序章「自然保育の現状と展望」、第3章「幼児の保護者の自然観・教育観と過去の自然体験や学歴との関係-日中の比較を通じた考察-」、第4章「幼児の保護者の自然観」、第5章「自然体験を基軸とした園(森のようちえん)の保護者の教育観・自然観と園への期待-一般園の保護者との比較から-」「あとがき」 日本環境教育学会北海道支部の企画として、自然保育と環境教育・ESDに関する研究論文、実践報告をまとめた。特に序章として、国内の自然保育に関する研究の動向についての概要をまとめた。 (監修) 能條歩 (編集代表) 田中住幸 (編集) 大類幸子、河端将史、清水日香里、田中邦明、陳倩倩、中本貴規 (共著者) 田中住幸、山口美和、大道香織、陳倩倩、田口夏美、板垣有咲、中井裕之、伊藤輝之、増田直広、中本貴規、内田幸一、高木晴光、能條歩
5. 持続可能な社会をつくる幼児期のESD論	共著	2024年2月	人言洞、160pp	(担当部分概要) pp. 1～13 第1章「幼児期のESDの今日的な動向」として、SDGsの解説や、幼児期のESDについてユネスコスクールでの取り組みについて概要をまとめた。 (編著者) 降旗信一、菊池稔 (共著者) 田中住幸、増田直広、地下まゆみ、小野瀬剛志、中本貴規、岡健吾、陳倩倩、板倉浩幸、仙田 考
(学術論文) 1. ネイチャーゲームを体験した保育学生の意識	共著	平成26年9月	釧路専門学校 保育・福祉実践研究センター研究紀要第5号 pp. 55～64	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 「ネイチャーゲーム」の指導者養成講座に参加した保育学生(約50名)の「ネイチャーゲーム」に対する意識の変容について、アンケート調査をもとに明らかにした。また、保育学生の幼少期の自然体験と「ネイチャーゲーム」に対する意識の相関関係について考察を重ねた。特に、研究全体の進行管理、本文執筆、データ集計・分析を担当した。 (共著者) 田中住幸、清水建司、上ノ澤千尋

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 2. 保育内容 5 領域における自己評価チェックリストの作成と構造分析	共著	平成29年11月	飯田女子短期大学教育研究論文集第1巻第1号 pp. 1～24	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 保育学生が養成校における学習成果をより具体的に確認するための保育内容5領域における自己評価チェックリストを作成した。また、作成されたチェックリストをもとに、保育者養成校における学生の学びの構造を検討し、6種類の構造に分類することが可能であることを明らかにした。特に、幼稚園教育要領などとの関連を確認しながら、文献調査を行い、保育内容健康及び環境に関するチェックリストを作成した。 (共著者) 宮下幸子、内田普子、田中住幸、相澤里美、松永幸代、青木千恵美
3. 幼稚園・保育所・認定こども園の安全管理の実態に基づいた支援活動	共著	2020年5月	飯田女子短期大学紀要第37号 pp. 99～118	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 2018年2月に長野県高森町で発生した、園外での保育中に幼児が死亡した事故を契機に取り組み始めた、保育者向けの安全管理講習会について、その詳細を紹介した、長野県内の保育園、幼稚園を対象に行った、安全管理に関するアンケート調査の結果から、安全管理講習で取り扱うべき内容について検討した。特に、研究全体の進行管理、本文執筆、データ集計・分析を担当した。 (共著者) 田中住幸、宮下幸子、中本貴規、能條歩
4. 自然体験教育と環境教育の視座から見た日中の幼児教育における一考察	共著	2020年8月	北海道教育大学紀要(教育科学編) 第71巻第1号 pp. 247～262	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 日中の幼児教育について、国の定めるガイドラインなどの文献調査及び、幼稚園、保育所などへの簡易調査の結果から、その実態や方向性について比較検討した。特に、日本国内における保育所、認定こども園への簡易調査部分を担当し、執筆した。 (共著者) 陳倩倩、能條歩、田中住幸、中本貴規

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 5. 屋外での保育における保育者の危険予知, 回避・コントロール, 対策能力向上に向けた教材開発	共著	2021年5月	飯田女子短期大学紀要第38号 pp. 157～162	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 信州やまほいく(信州型自然保育)認定園の保育者を対象に、アンケートによるヒヤリハット・事故事例調査を行った。また、収集したヒヤリハット・事故事例の傾向や特徴を参考に、屋外での保育における保育者の危険予知、回避・コントロール、対策能力向上に向けたシミュレーションシナリオを作成した。研究全体の進行管理、本文執筆、データ集計・分析を担当した。 (共著者) 田中住幸、中本貴規、松永幸代、宮下幸子、能條歩
6. コロナ禍における乳幼児の保護者の「困り感」	共著	2021年8月	北海道教育大学紀要(教育科学編)第72巻第1号 pp. 475～484	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) コロナ禍において乳幼児の保護者がどのような困難性に直面したかを検討するために、札幌市及び長野県飯田市の幼稚園等を対象として実施した調査の自由記述を計量テキスト分析により整理・分析した。特に、長野県飯田市の調査の実施及び、データ集計を担当した。 (共著者) 能條歩、田口夏美、田中住幸、中本貴規、陳倩倩、板垣有咲
7. 乳幼児の保護者の主観的幸福感や自然に対する肯定的態度と教育観との関係	共著	2021年8月	北海道教育大学紀要(教育科学編)第72巻第1号 pp. 537～552	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 保護者の主観的幸福感や自然への肯定的態度が保護者の教育観に与える影響を明らかにするため、札幌市及び長野県飯田市の幼稚園・保育園・認定こども園を対象とした調査を行った。特に、長野県飯田市の調査の実施及び、データ集計を担当した。 (共著者) 田口夏美、能條歩、田中住幸、中本貴規、陳倩倩、板垣有咲
8. 危険予知トレーニングの保育者養成校における展開方法の検討	共著	2022年3月	札幌大谷大学紀要第52号 pp. 103～115	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 保育者を目指す学生と現職保育者の危険予知トレーニング(以下、KYT)参加後の自由記述により、それぞれの効果の特徴を比較し、保育者養成校の中で継続的にKYTの機会を設けていくためのいくつかの方策を提案した。研究全体の進行管理、本文執筆、データ集計・分析を担当した。 (共著者) 田中住幸、中本貴規、能條歩

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 9. 自然保育に関する研修が保育者に及ぼす影響ー自治体が主催する研修に着目してー (査読有)	共著	2024年3月	自然保育学研究第6巻1号 pp. 14～26	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 2021年までに自然保育認定・認証制度を創設した鳥取県・長野県・広島県・滋賀県の4県における自然保育に関する研修の影響を分析した。4県の自然保育認定・認証を受けた就学前施設に勤める保育者を対象に質問紙調査を実施し、1,374名の回答が得られた。結果からは、研修は保育者のスキルや知識向上に寄与し、価値観や考え方にポジティブな変化をもたらす可能性が示された。本研究より、自然保育研修の多面的な影響を示し、今後の研修プログラムの設計や改善に寄与する知見が得られた。 (共著者) 庄子佳吾・田中住幸・北澤明子
10. 幼児期のESDとしての自然保育の現状と展望ー長野県内の幼児教育施設を対象にした質問紙調査からー (査読有)	単著	2024年9月	共生社会システム研究第18巻 pp. 176～193	日本国内で先進的に自然保育に取り組んでいると思われる長野県に着目して、OMEF ESD評価指標を用いて、幼児期のESDに対する各園の意識や、実践状況を把握するために質問紙調査を行った。その結果、幼児期のESDとしての自然保育の現状として、「自然環境との触れ合い」を中心にした活動に取り組む園は多い一方で、環境保全の取り組みや公平・公正、予算計画やお金の使い方に関する活動に取り組む園は少ないことがわかった。また、自然保育の認定園と非認定園の間では、自然保護の取り組みや地域との関わり、園の枠を超えたコラボレーションについて有意な差があることも明らかにした。
11. 幼児期のESDや自然保育に対する園長らの意識: 地域との関わりを視点に	単著	2025年3月	札幌大谷大学紀要第55号 pp. 1～15	長野県内の保育施設の園長らを対象にした質問紙調査の自由記述の結果から、園長らのESDや自然保育についての意識を明らかにした。その結果、ESDに恒常的かつ意識的に取り組んでいる園は少ない一方で、子どもを一人の主体者として尊重している園長らは多く、自然保育の認定を「受けている」園を中心に、自然保育に対する取り組みや地域との関わりに前向きな園長らが多いこともわかった。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
12. 幼児期のESDとしての自然保育の可能性 (博士論文)	単著	2025年3月	東京農工大学大学院連合農学研究科学位審査論文pp. 108	本研究ではポストSDGsを意識した幼児期からのESDとして、自然保育についての再考が急務となるとした上で、幼児期のESDとしての自然保育の可能性を明らかにすることを目的とした。特に、「幼児期のESDとしての保育内容論」「幼児期のESDとしての方法論」「幼児期のESD実践者としての保育者論」を研究課題とし幼児期のESDとしての自然保育の可能性を整理した。具体的には1) 自然との触れ合い活動以上に、持続可能性といったビジョンを持った自然保育への取り組みが幼児期のESD推進になること(保育内容)、2) 自然保育として地域資源を生かした教育(ESD)に取り組むことが、保育の質の向上にもつながること(方法)、3) ESDとの出会いが保育者にとって新たな保育(教育)観を得る機会になること(保育者)を示した。
(その他) (口頭発表) 1. 自然体験に対する保育者の意識の変容～「ねらい」における環境教育的視点に着目して～	共著	平成25年7月	日本環境教育学会第24回大会	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 保育者の自然体験に対する意識の変容について、特に「ねらい」における環境教育的視点を深める契機として、保育者と自然体験プログラムの出会いが大きな契機の一つになることを、保育者等へのインタビュー調査から明らかにし報告した。特に、研究全体の進行管理、調査、分析、本文執筆を担当した。 (共同発表者) 田中住幸、能條歩
2. 小学校向けの「水生生物観察会」プログラムの開発と実践	単著	平成29年9月	日本環境教育学会第28回大会	札幌市西区のまちづくり活動の一環として行われている、区内の小学校を対象にした「水生生物観察会」におけるプログラム及び市民参加型で行われた小学校教員向けの指導解説書の作成過程について紹介した。併せて、実際に「水生生物観察会」に参加児童や教員を対象に行ったアンケート調査の結果について報告した。
3. 保育を活かす自然体験活動－札幌市西区の事例より－	単著	平成29年11月	日本自然保育学会第2回大会	札幌市西区のまちづくり活動の一環として行われている、区内の幼稚園や保育所に対しての自然体験活動の指導者派遣制度について、その概要や活動の様子を紹介した。また、自然体験活動に参加した保育者らへインタビュー調査を行い、保育者らと自然体験活動の出会いや普段の保育への活用方法について明らかにし、報告した。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
4. 保育者養成への自然保育の組み込み方を考える	単著	平成30年10月	日本自然保育学会第3回大会	長野県が推進している「信州型自然保育認定制度」に着目し、保育学生及び現職保育者等へのアンケート調査の結果をもとに、保育者養成に自然保育の視点を盛り込む方策を検討し、その具体的な方法について提案した。
5. 屋外での保育における保育者の危険予知・回避・対処能力向上に向けた教材開発	共著	2019年11月	日本自然保育学会第4回大会	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 「信州型自然保育認定制度」の認定園185園を対象に、屋外保育中におけるヒヤリハット事故事例についてのアンケート調査を実施した。収集した約200件の事例について、K-SHEL法を用いて分類した結果について報告した。特に、研究全体の進行管理、データ集計・分析を担当した。 (共同発表者) 田中住幸、松永幸代、宮下幸子
6. 自然保育の現状と展望	単著	2022年8月	日本環境教育学会第33回大会	長野県が推進している「信州型自然保育認定制度」を例に、幼児教育におけるESDの立場から、自然保育の現状を整理し今後の展望を述べた。
7. Overview of Early Childhood Environmental Education in Japan	単著	2022年9月	Virtural Workshop on Japanese Model of Environmental Education	UNIVERSITI TUNKU ABDUL RAHMAN (マレーシア) 主催のバーチャルワークショップにおいて、日本の幼児期における環境教育の概要について解説した。
8. 自然保育認定・認証制度による保育者への影響 (1) -自治体が主催する自然保育に関する研修に着目して-	共著	2022年12月	日本自然保育学会第7回大会	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 2021年度までに、自然保育の認定・認証制度を創設した長野県・鳥取県・広島県・滋賀県の保育者を対象に実施した「自然保育認定・認証制度による保育への影響に関する調査」のうち、自治体が行っている研修制度に焦点を当てその意義を考察した。特に、研究全体の進行管理、データ集計・分析を担当した。 (共同発表者) 田中住幸、北澤明子、木戸啓絵、鈴木康弘
9. 幼児期のESDとしての自然保育の可能性	単著	2023年3月	日本環境教育学会北海道支部2022年度研究大会	長野県内の幼稚園、保育所、認定子ども園を対象に実施した「幼児期のESDに関する実態調査」の結果について報告した。
10. 保育者養成への自然保育の組み込み方を考える	単著	2023年3月	農学・環境系の教職実践研究7巻1号pp. 3～5	長野県内の保育学生及び現職保育者等へのアンケート調査の結果をもとに、保育者養成に自然保育の視点を盛り込む方策を検討した。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
11. 自然保育および一般的な幼児教育・保育の現状と保育者養成の課題	共著	2023年7月	日本野外教育学会第26回大会	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 全国各地の自然保育の広がりや、ESD推進のきつ々しとして期待できるといった観点から、具体的な自然保育の事例を紹介し、幼児期の自然保育の可能性について検討した。 (企画担当者・進行) 田中住幸 (話題提供者) 陳倩倩、中本貴規、酒井俊郎 (指定討論者) 能條歩
12. 国内外の幼児期の環境教育・ESDの展開	共著	2023年8月	日本環境教育学会第34回大会	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 幼稚園、保育所、認定こども園などを対象に実施した、幼児期のESD実態調査の結果を報告するとともに、国内外の幼児期の環境教育・ESDの展開について整理した。 (共同発表者) 田中住幸、降旗信一
13. Exploring the “Japanese Model” of Environmental Education - Based on the Virtual Workshops for Malaysian Early Childhood Educators	共著	2023年8月	日本環境教育学会第34回大会	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) This presentation examines the meaning and potential of international cooperation between environmental educators in Japan and elsewhere, especially from the perspective of exploring a “Japanese model” of environmental education (EE). (共同発表者) Sachi Ninomiya-Lim, Hiroyuki Itakura, Masaki Yahagi, Naohiro Masuda, Michiko Inoue, Kengo Oka, Nami Sasaki, Hiroyuki Takahashi, Sumiyuki Tanaka, Tin Seisei, Satoru Yamamoto, Lau Lin Sea
14. 森で育まれる子どもや保護者の自然観—2歳児対象の森のようちえんの実践から—	共著	2023年11月	日本自然保育学会第7回大会	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 乳児対象の森のようちえんの実践を取り上げ、子どもたちや保護者に育まれる自然観について考察した。 (企画担当者・進行) 田中住幸、中本貴規 (話題提供者) 山田智子、宮内愛、峯岸由美子

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
15. 自然が持つ「不快さ」と幼児が会える意義	共著	2023年11月	日本自然保育学会第7回大会	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 環境が人為的にコントロールされることが少ない、森のようちえんへの調査をもとに、幼児が、自然のもつ「不快さ」と出会う場面についての事例分析を行い、幼児が自然のあるがままの姿を体験し、変化していく様子を明らかにした。 (共同発表者) 石原ひなた、田中住幸
16. 保育者を志望する学生の身近な自然や環境教育に関する認識度調査	共著	2024年2月	日本環境教育学会北海道支部2023年度研究大会	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 保育者を志望する学生の身近な自然や環境教育についての認識についてアンケート調査を通して明らかにした。 (共同発表者) 加藤なぎさ、田中住幸
17. 保育者養成校に在籍する学生の環境教育に対する意識	共著	2024年3月	農学・環境系の教職実践研究第8巻1号 pp. 70～77	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 保育者養成校に在籍する学生を対象にしたアンケート調査を通して、保育者養成校の学生が身近な自然や環境教育について、どのように認識しているのかを明らかにした。 (共同発表者) 田中住幸、加藤なぎさ
18. 第8回大会開催の報告と御礼(日本自然保育学会 学会大会報告)	単著	2024年3月	自然保育学研究第6巻1号 pp. 65～68	日本自然保育学会第8回研究大会について、実行委員会委員長の立場から報告した。
19. 自然保育×養成・研修を考える	共著	2024年11月	日本自然保育学会第9回大会 実行委員会企画ラウンドテーブル	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 保育者養成校による自然保育者養成の事例から、養成カリキュラムや研修内容について意見交換を行った。 (企画担当者) 増田直広、柴田卓、田中住幸、室井修一、木俣知大
20. ESD 拠点としての自然保育実践園の可能性	単著	2024年11月	日本自然保育学会第9回大会	長野県内の幼稚園、保育所、認定こども園などを対象に実施した、幼児期のESD実態調査の結果を報告するとともに、ESD拠点としての自然保育実践園の可能性について整理した。
21. 木と他の動植物との繋がりについての「気づき」を促すための木育教材開発	共著	2025年2月	日本環境教育学会北海道支部2024年度研究大会	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 小学校低学年を対象とした、木と他の動植物との繋がりについての子どもたちの「気づき」を促すための木育教材開発の過程について報告した。 (共同発表者) 菅原南美、田中住幸、原翔太、能條歩

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
22. 幼児期の ESD としての自然保育の可能性	単著	2025年3月	日本環境教育学会第18回関東支部大会 修論博論合同発表	東京農工大学大学院連合農学研究科に提出した学位審査論文「幼児期の ESD としての自然保育の可能性」の概要について報告した。
23. 〈第 8 回大会 (2023) 基調講演報告〉環境教育学から自然保育学に期待すること	共著	2025年3月	自然保育学研究第7巻1号 pp. 48～59	日本自然保育学会第8回大会の基調講演「環境教育学から自然保育学に期待すること」についての講演録をまとめた。文字起こし、校正を担当した。 (共同発表者) 能條歩、酒井真由子、田中住幸
24. 〈第 8 回大会パネルディスカッション報告〉自然保育と森林 ESD (森林環境教育)	共著	2025年3月	自然保育学研究第7巻1号 pp. 60～80	日本自然保育学会第8回大会で開催されたパネルディスカッション「自然保育と森林ESD (森林環境教育)」についての講演録をまとめた。文字起こし、校正を担当した。 (共同発表者) 松山道子、高橋泰道、板倉浩幸、山口美和、田中住幸、小岩季之
(外部資金の獲得状況) 1. 科学研究費助成事業「自然保育認定・認証制度の影響と効果に関する実証的研究」		2020年度～2025年度		基盤研究 (B) (一般) 研究分担者 研究代表者: 山口美和 (上越教育大学)
2. 令和 6 年度「緑と水の森林ファンド」公募事業「森のようちえんの安全管理に関する実態調査」		2024年度		調査研究事業 (B)
3. 科学研究費助成事業「幼児教育・保育施設における「安全管理マニュアル」の作成、見直しに関する研究」		2025年度～		若手研究